



JARA NEWS

December 2018, No. 130

from
Japan Automotive Recyclers Alliance
www.jara.co.jp

Published by JARA Corporation
Tokyo Head Office: 1 F. Yaesu KT Bldg. 1-1-8,
Yaesu, Chuo-ku, Tokyo JAPAN 103-0028
Phone: +81 3 3548 3010 / Fax: +81 3 3231 4690



JARAの北島社長、インドで講演

JARA（JARAの北島宗尚社長はこのほど、インド・ニューデリーで開催されたインド金属リサイクル工業会（MRI）などが主催する会議で講演を行った。会議は「持続可能な成長」をテーマに、MRIやインド自動車工業会（SIAM）の役員などに加え、欧米やアジアの関係者が一堂に会した。インドの経済発展に伴う持続的成長に向けて、環境問題などを話し合った。

北島社長は、JARAを紹介する動画を放映して活動概要を紹介したほか、日本のリサイクル部品の流通ネットワークなどを説明した。また、講演を通じた環境貢献として植樹を行い、資源保全に結びつけた。

インドの新車市場は、現在の約400万台から

CO2削減数値(SPLシステム)

リユースパーツ使用によるCO2削減効果
参考値 平成30年10月

3,447t

※一般、中・大型含む車を修理する際、新品部品を使用して修理する場合に出るCO2排出量とリサイクル部品を使用して修理する場合のCO2排出量の差がCO2削減数値になります。

一般社団法人日本自動車リサイクル部品協議会と早稲田大学環境総合研究センターがLCA（ライフ・サイクル・アセスメント）の考え方に基づき共同開発した「グリーンポイントシステム」より参照。
了「Green Point System」。



2030年には1千万台へ拡大する見通し。これに伴い、インド国内の使用済み自動車のリサイクルに焦点が当たっている。SIAMやMRIは、日本の先進的なリサイクルシステムを反映した使用済み車の適正処理に関心を寄せているという。

（日刊自動車新聞11月15日）

アジア自動車環境フォーラム、初のインド開催

アジア地域の自動車リサイクル会議「第11回アジア自動車環境フォーラム（AAEF）」が1日、インド・ニューデリーで始まった。同フォーラムがインドで開催されるのは初めて。持続可能な社会をテーマに、日本を含む7カ国の自動車リサイクル事業者や行政、学術機関、自動車メーカーなどの関係者約200人が情報交換を行う。

日本勢は、アジア自動車環境フォーラム日本委員会（委員長＝劉庭秀東北大学大学院教授）、NPO法人全日本自動車リサイクル事業連合（NPO・JARA、高橋敏理事長）の理事や会員らが参加。

（日刊自動車新聞11月2日）

JARA、BP・見積技術セミナーを開催

JARA（JARA（日本自動車リサイクリーズ・アライアンス、北島宗尚社長、東京都中央区）は、静岡県裾野市のあいおいニッセイ同和自動車研究

所（東富士センター）で、「車体整備／板金塗装（BP）・見積技術セミナー」を3日間にわたり開催した。外板や外装部品の損傷など20万円程度の見積もり作成の技術を習得するのが目的で4会員8人が参加した。

同セミナーの開催は2回目。リサイクル部品の需要先であるBP事業者や整備事業者がどのように見積もりを算出しているのかを理解することは、「日常業務の中で顧客が求めている最適な部品を提案できることにつながる」（JARA）として昨年から継続開催している。

今回のセミナーでは塗膜と塗料の種類や塗装時のブース使用状況など踏まえた見積書の作成、損傷の程度や位置、構造から修理の難易度を割り出し、見積もり金額を算出する講義も行った。

また、受講者は2人1組になって実車に付いた傷の大きさを計測。結果に基づいて修理難易度を割り出す講習も受け、見積もりに対する理解を深めた。

修理見積書を作成することで修理・塗装工賃を考慮したリサイクル部品の価格設定が可能になる。また、レッカー業務や車両引き取りで概算修理金額が必要になった際の迅速な見積もりが業務拡大につながるとして、同社は見積もり方法の習得を促していく。

（日刊自動車新聞11月8日）



--- JARA 提携リビルトメーカー紹介 ---



大幅に拡張したVGモーター室で可変ノズルをリビルド



分解した可変ノズル。構成部品一つひとつを確認

ンサイジング化でも低速トルクが確保できるため、ディーゼルエンジン（DE）車で採用が進んだ。

しかし、VGSターボチャージャーにも弱点がある。可変ノズルは、無潤滑かつ高温で動くので磨耗を起こす。エンジンが金属磨耗して、金属片が排ガスから可変ノズルに入り込むトラブルを起こすこともある。ストップ・アンド・ゴーの多い市街地中心の走行が多い小型トラックやバン、新車から10年近く経過したり総走行距離が50万キロメートルを超える中大型トラック・バスなどで、故障が発生することが多いという。現在、ターボテクノサービスには、VGSターボチャージャー搭載車の増加とともに、リビルドターボチャージャーの引き合いが増えた。市川社長は「以前は軽自動車用中心だったが、今は全体の70～80%はトラック・バス用になった」と取扱品目の構成比が変わった。

◆VGモーター室の機器配置最適化

需要増に対応するために拡大したVGモーター室は、コアと呼ばれる損傷したターボチャージャーを洗浄してから運ばれてくる。可変ノズルを分解し、構成部品を一つひとつ検査し、磨耗や変形などを確認する。損傷しているものだけでなく、規定のサイズに満たない構成部品は新品に交換し、溶接して組み上げる。組み上げ後の検査を経て、可変ノズルは次の工程に送られる。

VGモーター室は、規模を拡大するとともに、使用する検査機器や溶接機などの配置を最適化し



工場内は常に清潔な状態を維持

た。これにより「人を増やすことなく作業効率を大きく向上できた」（市川社長）と改善の効果が表れた。

◆工場内にTTSテクノセンター併設

TTSグループは、ターボテクノエンジニアリング敷地内に「TTSテクノセンター」を併設している。工場見学とともに、取引先や整備事業者などに向けてターボチャージャーに関する理解を深めてもらう施設だ。トレーニングルームでは、ターボのカットモデルやDVDなどを用いて、ターボチャージャーの構造や機能、トラブルシューティングなどを解説する。エンジン不具合の影響で、ターボチャージャーの故障再発を防ぐことや、正確な知識を身に付けてもらうため、重要な拠点と位置づけている。

トラック・バスでも電動化の波が押し寄せているものの、長距離を走行するケースが多いトラック・バスは、乗用車よりクリーンDE車の需要が続くと見られる。TTSグループは、品質を重視すると同時に供給体制を整備したことで、さらなる顧客満足（CS）向上に結びつける。

（日刊自動車新聞11月1日）

併設するTTSテクノセンターのトレーニングルーム



渡邊社長は感謝の意を伝えた

キャレックが45周年 節目祝う記念祝賀会

自動車リサイクルを手がけるキャレック（渡邊和寛社長、福島県いわき市）はこのほど、いわき市内で「創業45周年記念祝賀会」を開催した。加盟するJARAグループの全国の会員をはじめ取引先など150人が出席、節目を祝った。

渡邊社長は「45年間、いろんな形でお付き合いいただいた皆様に厚くお礼申し上げます。父と親族と私の3人で立ち上げた会社は、1988年に全国200社の部品流通団体を作る仲間と出会い、大きな刺激を受けて成長した。また、皆様のお陰で成長させていただいた。これからも信頼されるキャレックを社員とともに築きあげたいと思っている」と感謝の意を述べた。渡邊寛樹副社長は「全国から多くの方にお越しいただき、感謝いたします。祝賀会の席を楽しんでいただきたい」と挨拶した。

来賓の高橋商会高橋敏会長は「当時、30歳代の渡邊社長が私の会社に見学に来た時、勉強熱心な姿があった。時代の変化の中、各社は息子たちが会社を受け継いでおり、100年に一度の変革期を乗り越えていきたい」。JARAの北島宗尚社長は「渡邊寛樹副社長はJARAの執行部で活躍いただいてい

る。キャレックさんと私たちが一緒に仕事していただくことで勉強になるし、ともに成長していきたい」とそれぞれ祝辞を述べた。

また、祝賀会に先立ち、ブルデンシャル生命保険の豊田哲野氏を講師に招いた記念講演会を開催。出席者は、講演内容に熱心に耳を傾けた。

キャレックは、1973年に渡辺商会として創業した。79年に法人化、82年に渡邊社長が代表取締役就任した。2000年株式会社キャレックに社名変更。03年SPN（現・JARA）に加盟。04年いわき市好間工業団地に本社を移転拡張。14年に第2工場を新築し、年を重ねるごとに事業規模を拡大している。東日本大震災では、部品倉庫などに被害を受けたものの、被災車両の引取業務にまい進するなど復興支援に取り組んだ。

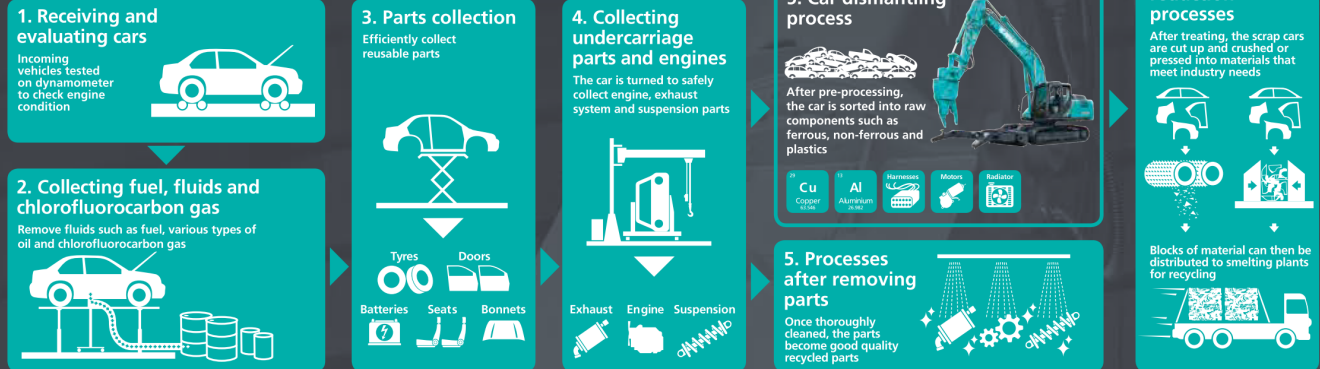
（日刊自動車新聞11月15日）

KOBELCO

We Save You Fuel
Achieving a Low-Carbon Society

Dismantling process flow chart

How the Car Dismantling machine works



The Evolution of car dismantling industry by Kobelco

Four times* the vehicle dismantling capability compared with hand dismantling.

*In one day (Kobelco test figures)

15 vehicles >
One operative working by hand.

60 vehicles >
One operative in a Kobelco Car Dismantling machine.



The machine's special attachment is designed to strip materials from End-of-Life Vehicles (ELV) safely and thoroughly

Improved recovery rate of rare earth metals

Separation of these valuable materials is quicker and easier and can be performed with one Kobelco machine.

SK210D



SK210D



SK 135SRD



コベルコ建機株式会社
www.kobelco-kenki.co.jp/

For Japan

(주)삼정건설기계
www.samjung-kenki.co.kr/

For Korea

KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY AUSTRALIA PTY LTD
www.kobelco.com.au/

For Australia

FAIR FRIEND ENTERPRISE CO.,LTD.
www.ffg-tw.com/

For Taiwan

成都神鋼工程机械(集团)有限公司
www.kobelco-jianji.com/

For China

KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY U.S.A. INC.
www.kobelco-usa.com/

For North America

KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY EUROPE B.V.
www.kobelco-europe.com/

For Europe